

事業所名 重心放課後等デイサービスまーぶるにじょう

支援プログラム

作成日 2025 年 3 月 31 日

法人（事業所）理念		法人）みんながご機嫌に暮らせる地域社会をつくる。 事業所）子どもの発達する権利を保障し、子どもが子どもである時間をしっかりと保証する。		
支援方針		放課後＝課題から解放された子ども自身の時間を十分にあげ、異年齢集団の中で子ども同士の力を生かして自己と他者の理解を促す支援を行います。障がいの状況に合わせ、生きることの支えとなる支援とともに、子ども自身が「生き抜く力」をつけることができるように他者との関わり方や必要な支援を選択する力を育てるような支援を行います。		
営業時間		学校開校日 13:00-17:00 学校休校日 10:00-17:00	送迎実施の有無 (あり) なし	
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	医療的ケアが必要な児童には、保護者、主治医、訪問看護事業所などとの連携を行い、個々の時々の状態にあわせたケアを行います。医療的ケアは必要とされない児童にも、食事、排泄、睡眠等、健康維持のための対応について、保護者、主治医との連携を行います。体調不良時、感染が疑われる場合は、別棟での支援を行うなど、個別の対応を行います。自分の体調について、本人が認識し、周囲の大人に発信することができる力を養えるように支援していきます。		
	運動・感覚	拘縮予防や姿勢保持の力、また、食事を摂る力が育つようにセラピストの助言ももらいながら、支援をしていきます。自分の身体について児童本人がしっかり認識できるよう、また、介助などについての希望を発信する力をつけるよう支援します。		
	認知・行動	全介助で暮らす児童たちが、自分の身体と心、他人の体と心を認識し、自己と他者の認識を持てるように支援します。行動に関しては、「自分でやる・やった」という実感が持てるよう、本人の心と体を最大限使ってプログラムに取り組めるよう支援します。		
	言語 コミュニケーション	発語が難しい子どもも、何らかの方法でイエス・ノーが表出できるように支援します。特に、NOが言えること（NOをいっても良い）を大事に支援をします。音声言語のみならず、視覚支援や、様々なツールを使うなど、一人一人に合ったコミュニケーション手段について、探していきます。		
	人間関係 社会性	常に介護される立場にある子どもたちが、「介護者」「養護者」「医療者」だけでなく、いろいろな人と関わる機会を積極的に持って行きます。また、自分がNOといえることで、他人のNOも理解し、人との距離感や、関わり方を学べるような取り組みを行います。将来家族以外の人との関わりの中で、自分の身体のことや思いを理解してもらえるように自身が努力して、他人と関係を作っていく事が大切であることの理解を促します。		
家族支援		複写式ノートで児童の状況、医療的ケアの実施内容などを伝えるとともに、送迎時の引き継ぎを行います。介護上での困り感や、きょうだい児のことなど、養育の困りなども、関係機関含めて連携して、保護者を支援します。	移行支援	まず、児童本人の意向をしっかり聞き、保護者の意向と、発達段階の評等を合わせ、関係機関との連携の上支援していきます。
地域支援・地域連携		土曜、長期休暇等は町内会等のイベントに参加します。日々の買い物など近隣商店に児童と共にいき、事業所周辺のとの交流を持つようにします。地蔵盆などで施設を自治会に開放し地域の方が入りやすい場にしていきます。	職員の質の向上	月1回法人主催の医療に関わる嘱託医研修を全職員対象に開催します。月2回職員会議で個々の子どもの支援について協議をします。外部研修にも積極的に参加し、学習とともに他事業所との交流も行います。
主な行事等		法人合同行事 お花見 夏祭り お餅つき 他 月1回 ミュージックケア 長期休暇時 音楽療法		